

こうざえもんつうしん 講左衛門通信

平成 29 年 4 月 9 日
第 8 3 号

発行 天台宗忍草山東円寺
〒401-0511
南都留郡忍野村忍草38
☎ 0555-84-4114



ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは案内責任者)

クニマッスン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

口癖 でまっすん..



『今日は、食行身禄（じきぎょうみろく）の話であったな。講左衛門通信では、度々身禄の名がでていたんじゃが、身禄といえば、即身仏（そくしんぶつ）となったお方じゃ。では、問題じゃ。即身仏とはどういうことが知っておるかのう・・・』

『即身仏とは、人々を救済するために土中に埋もれるなどして、瞑想状態のまま絶命する僧のことを言うでまっすん。

身禄については、即身仏になったという文献や、入定（にゅうじょう）したという文献があるでまっすん。入定は、宗教的な修行、身禄は断食をして息絶えたでまっすん。身禄の死後、富士講の爆発的な流行へとつながっていったでまっすん。』

『身禄の本名は、伊藤伊兵衛（いとういへい）と言って、1671年（寛文11年）伊勢の国（三重県）で生まれ、江戸に出て油売りなどの仕事をしていたんじゃよ。17歳の時に富士行者の月行（げつぎょう）を師として富士信仰の道に入ったんじゃ。享保18年（1733年）6月10日、63歳の時、富士山七合五勺目（現在8合目）にある烏帽子岩で断食行を行い、35日後にはそのまま入定したんじゃ。この断食の間、毎日教えを説き、それを田辺十郎右衛門に記録させたのが、「三十一日の巻」じゃ。富士講の経典の一つとされいるんじゃ。その教えでは「心を正しく持つこと、早寝早起きして昼夜怠けず働くこと、無益な殺生はしないこと」と言っておるんじゃ。現在でも十分に通用する教えじゃな・・・』

『当たり前のことを、当たり前にするのは、とても難しいでまっすん。教えと言うのは、シンプルでまっすん。けれども、富士講は、庶民が徒党を組むことを嫌った江戸幕府から、度々「富士講禁止令」を受けたでまっすん。』

『クニマッスンは本当に感心じゃ。江戸幕府によって富士講禁止令が発令されているのに、忍野八海を再興した大我講は、幕府から認可をいただいているんじゃ。そのような時代背景を想像すると、忍野八海の再興がどれほど異例であったかを知ることができると思うぞ。また、忍野八海にまつわる和歌について、身禄の娘に「はな」という人がいるんじゃが、その人が歌を詠んだという説があるんじゃ。しかし、「はな」が生きていた時代と忍野八海誕生を計算すると100年近いずれがあるんじゃよ。どちらにしても証拠がないんじゃ。さて、少し話がずれてしまったが、忍野八海の誕生は異例だらけなんじゃ。富士山世界文化遺産に登録されて以降、「入山料」という言葉をニュースなどで聞く機会があると思うんじゃが。昔からあったんじゃよ。次回は、「入山料」についての話をしようと思っておるぞ・・・』